

ものともよく合う。次に空揚げ。姿のままの登場なので、眼も口もガッと開いて、歯がそっくり剥き出しである。おそろおそろかぶりつく。パラグリの実の油が淡泊さを程よく補い、少量のピメントとアンデスの岩塩が、この魚の香りを引き立たせている。はじめの及び腰はどこへやら、いつの間にか2匹目に手が伸びて行く。

それにしても、船の甲板で川風に吹かれ乍ら、

ピラニアの頭と尻尾を持って齧っていたあの時、突然「あ、今、まさしく私はアマゾンに居る！」と強い感動を覚えたのは何故だったのだろうか。

この時のピラニアの下顎は、カラカラの干物となっていて、しかしあの歯だけは飽く迄鋭く、今も机の抽出の中でその存在を主張している。

(3回生)

とってもシャイで実はひょうきん

松本圭子

記念すべき浅海先生の退官記念号にこんな不謹慎なことを書くとは何事かと、諸先生、諸先輩方にお叱りを受けることを覚悟の上、この原稿を書かせて頂きます。

私は2年の時に地質学の授業を受けて以来、マスターを卒業するまで、いえ今日にいたるまで浅海先生には大変お世話になってまいりました。初めに受けたとっつきにくい印象と随分異なり、実は先生は余りにもシャイなために相当他人様に誤解を受けているということが間もなくわかってきたのです。

確かあれは4年の卒論で慌ただしい頃のことです。私のクラスのとある学生が、私にこう言いました。

「入学してもう4年目なのに、浅海先生は私のことを地理学科の学生とわからないらしくて。」彼女はエレベーターの中で先生と2人になった時大きな声で挨拶したのに無視されると私に主張するのです。するとそこにいた何人かのクラスメートも、自分も同様の経験があるとか言い出しました。先生にそのことを聞いた私が聞いた回答(釈明?)はこのようなものでした。

「エレベーターで女性と二人になったら恥ずかしくて顔が見られないじゃない。」

いったい何年女子大に勤めておられるんですかと口から出かかったのですが、浅海ゼミの一員としての任務はクラスメート達の誤解?をとくことと悟った私は、早速説明会を開いたのです。

学部卒業の謝恩会の時の先生の姿も忘れられま

せん。すっかり誤解のとけた先生は、一度でいいからハイヒールを履いてみたかったとおっしゃって、誰かのハイヒールを借りて記念撮影をしているのです。上月使いでちんまり収まっていられない先生の写真を見ると今でも笑いが込み上げてきます。(先生にはアルコールが入っていたことを申しそえます。)

私の卒論、修論のフィールドである甲府には、何度もご足労いただきました。ブドウの調査をしていたのでブドウ畑をずいぶん歩きまわったのですが、一目をしのんで失敬したブドウを口に入れたら酸っぱすぎて思わず吐き出した先生の顔も忘れられません。

大学院時代には偶然先生のお宅から徒歩5分の所に下宿していたので、時々お邪魔させていただきピアノをお借りしたり、夕飯をごちそうになったり本当に良くしていただきました。先生にはとてもかわいい(目上の方に使う表現ではないことは承知しているのですが敢て使います)優しい素敵な奥様がいらっしゃいまして、このお二人を見ていると思わず「いいなあ。」と口に出てしまうような雰囲気は浅海家にはありました。応接間にたくさんのぬいぐるみが置いてあり、先生のイメージとちょっと違ったので(今は納得していませんが)初めてお邪魔したときは驚きました。お誕生日にひょうきんな顔をした黒ネコのぬいぐるみをゼミでプレゼントしましたところ、意外とサービス精神旺盛の先生は、「こういうのが欲しかったんだ。ありがとう。」と

おっしゃって、研究室内でネコの鳴きまねをし始めました。それがとなりの図書室に聞こえて、あとで他の人に何をしていたのかと聞かれたという記憶もよみがえってきました。

ご家族思いの先生のお宅には、ぬいぐるみの他にいつもご家族のお写真が数枚飾られています。お子さんやお孫さんのことを話される先生は一番イキイキしておられます。一見とっつきにくそう

な先生ですが実はとてもひょうきんで気さくな方なのです。先生のお人柄はあの暖かいご家庭があってああなのだとして一人で納得してしまう私です。もちろん学者としての先生のご活躍はいうまでもありませんが、別の一面をこの場を借りてご紹介させていただきました。先生いろいろバラしてしまつてごめんなさい。そして長い間本当にありがとうございました。(30回生)

浅海先生とチョコレートパン

西澤世子

卒業致しましてから10年がたちました。育児に追い立てられてという言い訳を差し引いても、恥ずかしい限りの記憶ですが、ゼミでお世話になりました浅海先生の事で、良く覚えている事があります。

私は卒論で、郷里に近い妙高高原を選びましたが、その時先生に一日一緒にまわっていただきました。夏の暑い日でした。山にはいったら何かと不便だと思い、あらかじめ「お昼はパンでいいですか。」と伺いますと、「ええ、いいですよ。」とおっしゃいます。「何がいいですか。」と伺いますと、「チョコレートパンはありますか。」とお聞きになりました。私はちょっとびっくりしました。私は自分の分は何を買ったのかまったく覚えていません。チョコレートパンはちゃんと売られており、お昼はパンとジュースでした。

浅海先生は、常日頃より寡黙で、角の研究室兼実験室でいつでも熱心に研究なさっておられました。私達の年度は2度巡検で指導していただき、(1度も担当していただかなかつた先生もいらつしゃいます)お世話になっていましたが、パーソ

ナルな面を見せていただいたのはこの時が初めてでした。私はずっと先生達に親しみを感じるという事が、とても難しいと思っていました。ニーズがなかったといえぼそれまでですが、熱心な学生でもありませんでした。ですから、先生はチョコレートパンがお好きということ、特に忘れずにいたのだと思います。

その日の夕方、先生に挨拶致しました私の父が、「四年間学んだ地理学を仕事として活かすのは大変難しいようで、残念な気がいたします。」と、申し上げました。実際、言い訳がましいのですが、あの年は就職が大変な年でした。先生は、「大学で学ぶだけというのは、大学でしか学べないという事で、逆に云うと大変貴重だと云う事です。」とおっしゃいました。私は四年目の夏に初めて本当に不勉強を後悔しました。

とにかく、フィールドに来ていただいた事とか、その時先生にチョコレートパンを買った事とかは、卒論の出来、不出来とはまったく関係なく私には大変新鮮なことでした。(28回生)